

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク山下町保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町27番地 スタイリオ山下公園ザ・タワー2F
設立年月日	平成22年4月1日
評価実施期間	平成27年9月～28年1月
公表年月	平成28年3月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特徴】	
1. 立地上の特徴	
アスク山下町保育園は、みなとみらい線「元町・中華街駅」から徒歩5分、店舗併設の18階建のマンションの2階にあり、平成22年4月に開園の定員60名の園です。近隣には大棧橋や赤レンガ倉庫、中華街、横浜人形の家など横浜を代表する観光・文化施設が多数あり、山下公園を園庭代わりに利用できる環境にあります。	
2. 多彩なプログラム	
クッキング保育、設置法人の講師による英語教室・リトミック・体操教室を取り入れ、子どもの楽しむ心や学ぶ楽しさを育むプログラムを提供しています。	
【特に優れていると思われる点】	
1. 戸外活動で伝える身近にある豊かな遊び	
ビルの中の園であることから、天気の良い日はほぼ毎日0歳児から積極的に園外活動を行い、目の前の山下公園では、木登りをしたり、鬼ごっこやボール遊び、砂遊び、虫メガネを持って土の穴や木の皮を観察したり、落ち葉・どんぐり拾いなど、五感を働かせて思い切り身体を動かし、自然と触れ合っています。また、気候の良い季節には、段ボールの画板をもって横浜港の写生をしたり、午睡後に園の手作りおやつを持ってミニピクニックをしたりしています。都会のなかの身近な自然に目をむけて、遊具に頼らずとも心豊かな遊びができることを伝えています。	
2. 保護者へ日々の園の取り組みを伝える工夫	
各クラス担任が、毎月のクラスだよりの紙面を工夫して、子どもの面白エピソードを載せたり、その月の園行事の見どころを伝えたり、保護者にお勧めの絵本や育児書を紹介したりしています。3～5歳児クラスは、その日の活動の様子を写真入りで詳細にクラスノートに書いて、保護者に伝えています。また、子どもの誕生月に、各クラス1日1組限定で保育参加を受け入れ、子どもも楽しみにしているのでほとんどの保護者が参加しています。朝の会から給食を食べるまで保護者が子どもと過ごし、園の日常の様子を肌で感じてもらえる日としています。	

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 計画の継続努力を

園長によれば、今年度職員のなかの非常勤職員の割合が高まり、体制が整わず、異年齢の縦割り保育、夏祭りのバザーや山下公園のコンビニエンスストアでの地域支援など、中長期計画に挙げて去年まで行ってきたことで、やむなく実施できなくなったことが多々ありました。このことをサービスの切り下げのように思う保護者もいるようです。いかに工夫して再開、または形を変えて実行できることを始めるか、について検討努力が期待されます。

2. 職員の資質向上への取り組み

職員の異動が多く、子どもへの声かけ、誘導の仕方や保護者対応など、職員によってかなり差がある傾向が認められます。一部職員の口調や態度が厳しいことについて、園長、主任がクラスに入って指導していますが、会議や研修を通して職員間で保育観の再確認をするなど、職員の資質向上が期待されます。

3. 不審者と津波への備え

園は横浜港に面しているといっても過言ではない立地で、大勢の観光客が訪れる山下公園を園庭代わりに、毎日のように利用しています。園外活動中の不審者対策を再度確認し、より安全に配慮しながら、子どもたちが思いきり遊べるように援助することを期待します。また、大地震時の津波の発生を想定した避難について、職員間での検討が望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・職員は、子どもの言葉や態度、表情から気持ちを汲んで、子どもの意見を聞き尊重しています。製作や散歩、ゲームの進行、行事の配役などに子どもの意見を取り入れて、計画は柔軟に変更できるようにしています。
- ・遊びや行事の役割、順番、グループ分け、整列は、性差に関係なく子どもの意思を尊重して決めています。持ち物や服装、色なども性差を意識していません。
- ・マイペースな子どもへも、時間を意識できるような働きかけをしつつもせかすことはせず、個人差を受け止めて対応しています。
- ・虐待防止マニュアルがあり、職員は入社時研修で学んでいます。着替えや排泄時に身体にアザが無いか観察しています。虐待が疑わしい場合は設置法人本部に連絡し、明白になった場合は、児童相談所や中区こども家庭支援課などと連携できる体制があります。
- ・子どもへの言葉かけや子どもの泣き声など、日常の保育で気になったことは園長が注意し、子どもの人格を認め、感情的な対応をしてはいけないことを、職員会議で話し合っています。
- ・職員は全員入社時、守秘義務について研修を受け、ボランティアや実習生にも守秘義務があることを伝えていきます。また、個人情報管理規程があり、園で管理する個人情報帳票の保存方法・期間を定め、事務所の書庫に施錠保管しています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育室に恐竜や天体、昆虫や植物などの図鑑を置き、子どもたちはよく開いて見えています。育てている野菜が登場する絵本の読み聞かせをするなど、子どもの興味、関心を広げています。親子遠足で近隣の公園に行き、落ち葉で製作をして、保護者に身近なもので遊ぶ楽しさを伝えていきます。

・空き箱やラップの芯、発泡スチロールトレイなど家庭から集め、子どもの発想で自由に使える期間を設けています。また、乳児から絵の具を用い、手形スタンプやボディーペインティングなどで自由に表現しています。

・2歳児から月1回クッキング保育を行い、皮むきや、型押し、米を洗ったりして、食に関心が持てるようにしています。

・新入園児の保護者のために、今年度は離乳食の試食会を行いました。後期食・完了食・幼児食の違いを伝え、出汁をとり、素材を活かした味付けの園の給食を伝えました。

・トイレトレーニングは、子どもの発達を見極めて間隔が十分にあくようになってから、保護者と合意の上で、先ずトイレに座ってみることから始めています。

・入園前に健康調査票で既往症を聞き、入園後は、り患の都度保護者から報告を受け、職員会議で周知しています。健康診断・歯科健診を実施し、健診前に保護者から気になることを聞き、健診時に医師に質問して保護者に伝えていきます。結果は、所見の有無にかかわらず、即日全員の保護者に伝えていきます。

・感染症が疑われる場合は保護者に連絡し、お迎えが来るまで事務所で他の子どもと離して静かに寝かせています。発生した場合は、症状や手当方法などとともに玄関に掲示して保護者に伝えていきます。

・日々の清掃は遅番職員がマニュアルに沿って行い、土曜日には扇風機やエアコンの清掃をするなど、清掃記録表でチェックして漏れの無いようにしています。遅番職員が毎日乳児のおもちゃを消毒液に浸した布で拭いています。また、年末には2歳児から小さく切ったタオルで拭き掃除をするなど、子どもと一緒に大掃除に取り組んでいます。

・0～2歳児は個別に連絡ノートを持ち、日々の子どもの様子を家庭と園で伝え合って連携して保育を行っています。3歳児以上も希望者はノートを持ち、やりとりしています。

・「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」を保育の基本方針として、園目標を「大切にしよう！元気な挨拶・ありがとうの気持ち。のびのび育てよう！心とからだ」としています。

・職員は理念・基本方針を入社時に研修で学び、毎年度初めの保育課程の見直しの際に確認しています。

・入園前面談時に重要事項説明書や園のしおりなどに基づいて、園のサービス内容や料金などを分かりやすく説明しています。

・年間・月間指導計画、週案、保育日誌の書式は、目標や評価を記入して連続性の持てるものに統一しています。自己評価が計画の目標に照らしたものになるよう、研修で書き方を学んでいます。年間、月間指導計画および週案は、各クラス担任が作成し、園長が責任者として毎月確認しています。

3.サービスマネジメントシステムの確立

	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児の全員と、幼児についても特別な課題のある子どもには、担任が個別指導計画を作成しています。月1回の職員会議や月3回のリーダー会議のなかで個別ケースについて話し合い、他の職員と情報を共有して、意見を聞いて見直しを行っています。 ・食物アレルギーのある子どもへの給食は、トレイの色を変えて、調理担当と職員で専用のファイルで内容を確認して、別テーブルで提供しています。 ・早番担当が登園時保護者から得た情報は、検温表に記録して担任に伝え、降園時は延長保育日誌に担任が書いたことを、保護者に伝える仕組みになっています。できるだけ保護者に声をかけるよう職員会議で話し合っています。 ・土地柄、多様な国の人が住んでいたり、外国観光客も多く、瞳や髪、肌の色の違いなど子どもたちは自然に受け止めています。英語プログラムを通じて、外国文化に触れる機会があります。 ・苦情受付担当者は園長で解決責任者は設置法人代表と定め、第三者委員とともに重要事項説明書に記載して、保護者に周知しています。 ・意見箱や行事後のアンケート、毎年第三者評価を受審して無記名の保護者アンケートを行っており、直接意思を表明するのが困難な保護者の意見を収集する機会を多く設けています。その他、連絡帳や日々の会話で保護者の意向を汲むように配慮しています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中区の子育て支援事業の「グランマ保育園事業」に参画し、絵本の貸し出しを行っています。また、職員が中区民まつり「ハローよこはま」で実行委員を務めており、地域住民と交流しています。なお、定期的な育児相談は行っていませんが、園見学や絵本を借りに来た方を通じて、地域のニーズを把握しています。 ・園長と5歳児担当職員が中区の幼保小連携会議に参加し、情報交換するとともに交流を図っています。また、5歳児が就学に向けて近隣の小学校を訪問し小学生と交流しています。 ・ハロウィンでは近隣のホテル・美容院などの近隣施設に協力してもらい、仮装して訪れる子どもたちに菓子の配布をお願いしており、後日5歳児が感謝状を製作して届けるなど交流を深めています。また、人形の家や神奈川芸術会館など近隣施設のパンフレットを預かって園内に置き、保護者への紹介に努めています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織および職員が守るべき法・規範・倫理などは「保育園業務マニュアル」「就業規則」に明文化されており、職員には入社時研修で周知しています。 ・園が重要な意思決定をする場合、その目的・決定理由・経過などを職員会議で説明しています。また保護者には運営委員会や懇談会などで説明し理解を求めています。 ・設置法人にコンプライアンス委員会があり不正などを直接通報できる仕組みがあり、連絡先を職員のロッカー室に掲示しています。また、設置法人での園長会議で報告された他園の事例などは、リーダー会議や職員会議などで話し合

	<p>い職員のモラルアップを図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年6月に5年長期計画目標として「子供が自ら育つ力を引き出す」「子育てを支える温もりのある地域との連携」「親や職員が自らも育っていくことを支援」と設定しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人は運営理念・基本方針の実践のため、「保育士人材育成ビジョン」を作成し、これをもとに研修計画を立てて計画的に人材育成を図っています。設置法人主催の階層別研修・自由研修において標準的な実施方法の指導が行われています。また、園内でも必要に応じて園長による実地指導が行われています。 ・職員は、年2回人事考課につながる自己査定を行い、また前期・後期で自身の研修計画の評価も行っています。 ・園としては、毎年受審する第三者評価の自己評価を利用して振り返り、年度末の会議で総括する仕組みがあります。昨年度末には「締めくくりとスタートのための会議」を行い、「他のクラスとの関わりをもっとやってもよかったのでは？」という反省がありました。このことを、研修計画の反省や、保育課程の見直しにつなげています。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」を保育の基本方針として、園目標を「大切にしよう！元気な挨拶・ありがとうの気持ち。のびのび育てよう！心とからだ」としています。 ・職員は理念・基本方針を入社時に研修で学び、毎年度初めの保育課程の見直しの際に確認しています。 ・保育課程は、年度末にクラスごとに見直しをした後、職員会議で検討しています。4月中旬の保護者会で、基本方針、園目標、行事計画については話をしましたが、保育課程には触れていません。 ・保育課程をもとに、年齢毎に年間・月間指導計画、週案・日案を作成しています。 ・職員は、子どもの言葉や態度、表情から気持ちを汲んで、子どもの意見を聞き尊重しています。製作や散歩、ゲームの進行、行事の配役などに子どもの意見を取り入れて、計画は柔軟に変更できるようにしています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の保育が、基本方針に沿った保育課程をもとに保育の計画が作成されて実践されていることを、保護者に説明することが望まれます。 ・保育課程に園の立地を生かした保育を盛り込み、独自性のあるものとされるよう期待します。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園前面接では、子どもと一緒に来園してもらい、職員が生育歴や家庭での様子、アレルギーの有無などを確認し、面談シートに記録しています。この記録と提出書類を個別にファイルにまとめ、子どもの情報を職員会議で共有して保育に生かしています。

・入園前面接時、ならし保育の必要性について説明し、保護者の都合や子どもの情緒に合わせて、対応しています。

・入園時は子どもが心理的に落ち着くタオルやおもちゃなどの持ち込みを認めていますが、1か月くらいかけて自然と必要なくなるように配慮しています。

・0～2歳児は個別に連絡ノートを持ち、日々の子どもの様子を家庭と園で伝え合って連携して保育を行っています。3歳児以上も希望者はノートを持ち、やりとりしています。

・新入園児を迎えて落ち着かない時期は、寂しい思いをさせないよう園長や主任も保育に入り、できるだけ普段どおりの対応ができるようにしています。

・指導計画の作成は、前年度の担任が作成した年間指導計画をもとに新担任が作成し、子どもの発達や状況に見合った連続性に配慮しています。評価、見直しはクラス毎に行い、園長・主任が指導・確認しています。

<コメント・提言>

・0、1歳児の新入園児には、愛着関係が築かれるよう、入園後一定の期間だけでもできるだけ決まった職員が対応されるような配慮が望まれます。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・職員はシフトに合わせて清掃担当箇所をもち、清掃チェック表で管理して、園舎は清潔に保たれています。遅番職員が毎日乳児のおもちゃを消毒液に浸した布で拭いています。
- ・ビルの構造上窓を開けられませんが、24時間換気システムと空気清浄機が稼働しています。保育室の壁は臭気・湿気をとるタイルを使用しており、消臭スプレーも必要に応じて使用し、気になる臭いはありません。
- ・保育室の温度の目安は26～27℃ですが、活動に合わせて職員が体感で適温になるようエアコンを調節しています。また、1歳児の保育室には床暖房があります。
- ・保育室は全面ガラス窓で陽が入りすぎる傾向があり、カーテンで調節しています。2、3歳児室は陽光が届きませんが、他のクラスで過ごす時間を持ったり、積極的に散歩に出るなどして保障しています。
- ・0～1歳、2～3歳、4～5歳の保育室が同じフロアで、連携して保育にあたっており、職員はお互いの活動計画を把握して、音の出る活動の時間をずらしたり音楽や声の音量を調節するなど、配慮しています
- ・0歳、1歳それぞれの保育室の隣に沐浴設備と温水シャワーがあり、夏場汗をかいたり、おもらしやおねしょ、お尻が汚れた時などに使用しています。
- ・朝9時までと、17時以降の延長保育時間は合同保育をしています。行事の際は、2～5歳児の部屋の可動式の壁や仕切り棚を移動して、一続きの大きな部屋として使用しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児の全員と、幼児についても特別な課題のある子には、個別指導計画を作成しています。
- ・個別指導計画は担任が作成し、月1回の職員会議や月3回のリーダー会議のなかで個別ケースについて話し合い、他の職員と情報を共有して、意見を聞いて見直しを行っています。
- ・子どもの発達に応じて、登・降園時の会話や連絡帳、面談などで保護者と連携しながら計画を作成、見直ししています。
- ・入園時に「児童家庭調査票、健康調査票、緊急時引渡票、お子様の状況について」を提出してもらい、入園前面談シートとともに個別のファイルにまとめています。事務所の書庫に保管し、職員はいつでも見ることができます。
- ・入園後の発達記録は、0、1、2歳児は毎月、3歳児以上は3か月ごとに児童票にまとめています。毎月計測する身長・体重はクラス毎にファイルにまとめています。
- ・進級時には、児童票をもとに次の担任に引き継いでいます。
- ・保育所児童保育要録は5歳児の担任が作成し、園長が確認をして、就学する小学校に送付しています。必要に応じて小学校に電話をしたり、教員と直接話したりしています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・ビルの入り口からはエレベーターを利用することができ、園舎内はワンフロアのバリアフリーで、車いす対応のトイレもあります。

・配慮を要する子どもを積極的に受け入れて、月1回の職員会議や月3回のリーダー会議のなかで個別ケースについて話し合い、他の職員と情報を共有して、意見を聞いて見直しを行っています。

・職員は障がいの特性や障がい児保育について、法人内外の研修を受講しており、研修結果を職員会議やケース会議で共有し、保育に生かしています。また、設置法人の発達支援担当や、横浜市中部地域療育センターや児童相談所などから助言を得られる体制があります。

・障がい児と他の子が一緒にできること、しない方がいいことを考えながら、できることが増えるような働きかけをしています。

・虐待防止マニュアルがあり、職員は入社時研修で学んでいます。着替えや排泄時に身体にアザが無いか観察しています。

・虐待が疑わしい場合は設置法人本部に連絡し、明白になった場合は、児童相談所や中区こども家庭支援課などと連携できる体制があります。

・入園面接でアレルギーの有無を聞き、診断書と生活管理指導表をもとに園長・担任・食物アレルギーに関しては栄養士と対応を協議しています。

・食物アレルギーのある子への給食は、トレイの色を変えて、調理担当と職員で専用のファイルで内容を確認して、別テーブルで提供しています。

・入園時に、文化や生活習慣の違いにより配慮が必要なことを確認して、宗教上豚肉が食べられない家庭の子どもには鶏肉に替えるなど、対応しています。

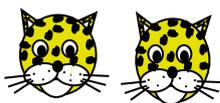
・土地柄、多様な国の人が入園していたり、外国観光客も多く、瞳や髪、肌の色の違いなど子どもたちは自然に受け止めています。英語プログラムを通じて、外国文化に触れる機会があります。

・現在意思疎通に困る家庭はありませんが、保護者同士で通訳したり、中区に相談するなど対応策があります。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・苦情受付担当者は園長で解決責任者は設置法人代表と定め、第三者委員とともに重要事項説明書に記載して、保護者に周知しています。
- ・運営委員会、年2回の個人面談で保護者の意見を聞いています。その他、連絡帳や日々の会話で保護者の意向を汲むように配慮しています。
- ・玄関に意見箱を設置し、行事後のアンケート、毎年第三者評価を受審して無記名の保護者アンケートを行っており、直接意思を表明するのが困難な保護者の意見を収集する機会を多く設けています。
- ・苦情対応マニュアルがあり、苦情が寄せられた場合、第三者委員を交えて対応する仕組みがあります。園単独で解決できない場合は、設置法人本部や中区こども家庭支援課と連携して対応できます。
- ・苦情があった場合は、クレーム受理票に経過や対応を記録して、職員会議で職員と対応を検討しています。

<コメント・提言>

- ・権利擁護機関として、横浜市福祉調整委員会の連絡先を園内に掲示するなどして保護者に知らせることが望まれます。
- ・日々の連絡帳や会話で寄せられた保護者の要望も記録し、蓄積されることを期待します

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・担任が、子どもの発達や興味にあったおもちゃや絵本を選んで、低い棚に置き、子どもが自分で取り出して遊べるようになっています。乳児はハイハイやつかまり立ちが出来るように、幼児は机やマットでコーナーを作って遊びを選び、好きなことができるよう環境を整えています。・遊びに入れない子に職員が寄り添い、その子が興味を示すものを聞いて一緒に遊ぶなど援助しています。・保育室に恐竜や天体、昆虫や植物などの図鑑を置き、子どもたちはよく開いて見えています。・園庭のプランターで茄子、ピーマン、さつまいもなどを栽培し、収穫してスタンプ遊びなどにつなげました。・メダカやカブトムシを育て、死んでしまった姿を見て、命の大切さに気付いています。・散歩マップを作成し、発達に合わせて公園の遊具を選び、天気の良い日は子ども達に行き先の希望も聞きながら、できるだけ散歩に出かけ、声をかけてくれる観光客や地域の方と挨拶しています。・近くの山下公園が園庭代わりで、遊具の無い山下公園では、木登りやボール遊び、縄跳び、虫取り、ピクニックごっこなどを行っています。屋内では体操教室で、跳び箱、マット運動などを行っています。・リトミックや体操教室で思い切り身体をつかった表現活動をするほか、空き箱やラップの芯、スチロールトレイなど家庭から集め、子どもの発想で自由に使える期間を設けて製作で表現もしています。また、乳児から絵の具を用い、手形スタンプやボディーペインティングなどで自由に表現しています。・朝の会は3、4、5歳児合同で行い、散歩も異年齢で行くなど、日常の中で異年齢で交流が持てるようにしています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none">・散歩には虫眼鏡を持って出て、木の幹や地面の穴を覗いていました。育てている野菜が登場する絵本の読み聞かせをするなど、子どもの興味、関心を広げています。・4、5歳児はダンボールを画板とし、公園で写生をしています。港に停泊する船やカモメなど、クラスに個性あふれる絵が掲示されていました。 <p>一部の職員に、子どもに対して厳しい口調、態度が見られ、子どもたちが保育士の顔をうかがうような様子が見られました。</p> <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none">・一部の職員に、子どもに対して厳しい口調、態度が見られました。子どもを受容し、笑顔を引き出すような温かい対応が求められます。また、職員間でも注意し合えるような関係を築くことが望まれます。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・乳児の授乳は、その子の欲しがるときに一人一人抱っこをして、目を見ながら与えています。冷凍母乳にも対応し、入園当初は哺乳瓶を嫌がる子もいますが、おなかの空いた時、のどの渴いた時などに根気よく与え、徐々にならしています。
- ・2歳児から月1回クッキング保育を行い、皮むきや、型押し、米を洗ったりして、食に関心が持てるようにしています。
- ・手づかみでも、子どもが自ら食べる意欲を持つことを大切に、栄養士は、旬の食材を取り入れた献立で、子どもが食べやすい調理方法を心がけています。毎月の行事食は、盛り付けを工夫して子どもが楽しみにしています。
- ・食器は強化磁器で、発達にあった形状の食器を用い、2歳後半から箸の練習を始めています。
- ・完食の喜びを感じられるように、予め食べきれる量を盛り付けるようにし、食欲のある子はおかわりをするようにしています。時間を決め、目標を持って食べられるようにしています。職員が子どもの好き嫌いを把握して、苦手なものもひと口は食べてみるように励ましています。
- ・新入園の保護者のために、今年度は離乳食の試食会を行いました。後期食・完了食・幼児食の違いを伝え、出汁をとり、素材を活かした味付けの園の給食を伝えました。
- ・眠くない子は、布団の上で体を休める、目の届く場所で眠くなるまで静かに遊ばせるなど、午睡を強要していません。また、眠くなってしまった子どもは、保育中でも静かに眠れる場所で個別に対応するなどしています。
- ・乳幼児突然死症候群防止のための園の取り組みを、入園説明会で保護者に伝えています。うつぶせ寝はせず、0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に呼吸チェックをしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・健康管理マニュアルに沿って子どもの健康状態を把握し、記録しています。
- ・入園前に健康調査票で既往症を聞き、入園後はり患の都度保護者から報告を受け、職員会議で周知しています。個人ファイルに加筆して、年度初めに保護者に見直してもらっています。
- ・保育中の体調の変化は、体温37.5℃を目安に様子を見て、38℃で保護者にお迎えに来てもらいます。経過や対応を保護者に伝え、通院の必要性や家庭での対応について話し合っています。
- ・1歳児には職員が歯磨きをし、2歳児以上は歯磨き指導をして、職員が仕上げ磨きをしています。
- ・健康診断・歯科健診の結果は、個別の健康記録票に記入し、クラスごとにまとめています。
- ・健診前に保護者から気になることを聞き、健診時に医師に質問して保護者に伝えていきます。結果は、所見の有無にかかわらず、即日全員の保護者に伝えていきます。
- ・健診時受診できなかった場合でも、後日嘱託医で受診できるように配慮して、すべての子どもの治療や健康管理に関して嘱託医に相談できる連携があります。
- ・感染症マニュアルがあり、登園停止基準や保育中の感染症発症の場合の対応が明記されています。
- ・重要事項説明書に感染症の種類や登園の目安、治癒証明書の必要性を明記して、入園時に保護者に伝えていきます。
- ・感染症が疑われる場合は保護者に連絡し、お迎えが来るまで事務所で他の子と離れて静かに寝ています。発生した場合は、症状や手当方法などとともに玄関に掲示して保護者に伝えていきます。
- ・中区の感染症発生情報や、設置法人からの情報により、感染症の最新情報を得て、会議や掲示にて職員間で共有しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]

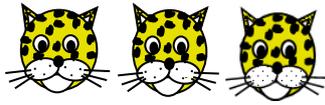


- ・衛生管理に関するマニュアルがあり、職員は、入社時と階層別研修でマニュアルの内容を確認しています。また、プールが始まる前や感染症流行前に、職員会議で衛生処理の手順を確認しています。
- ・このマニュアルは、厚生労働省の通達や各園での意見をもとに、設置法人が見直しをしています。
- ・日々の清掃は遅番職員がマニュアルに沿って行い、土曜日には扇風機やエアコンの清掃をするなど、清掃記録表でチェックして漏れの無いようにしています。

<工夫している事項>

- ・年末には2歳児から小さく切ったタオルで拭き掃除をするなど、子どもと一緒に大掃除に取り組んでいます。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・安全管理マニュアルがあり、地震・事故災害に備えたものとなっています。
- ・保育室のロッカーは可動式ですが耐震シートを敷き、本棚や布団庫は突っ張り棒で固定して、転倒防止策を施しています。
- ・毎月1回、火災・地震など、様々な想定で避難と通報訓練を行い、事故や災害時の対応フローチャートを事務所と各保育室に置き、落ち着いて連絡・対応できるようにしています。
- ・職員16名中7名が幼児安全法を習得しており、毎年、内部研修で全員で心肺蘇生法の確認をしています。
- ・医療機関などの連絡先一覧を事務所にファイルにしています。全園児、緊急時引き渡し票を見て保護者に連絡がとれるようにしており、また、保護者と全職員のメールアドレスを緊急連絡用に登録しています。
- ・保育中のケガは、小さなものでも保護者に直接口頭で伝えるようにしています。受診を検討するようなものはアクシデントレポートに記録してできるだけ早く職員を集め、再発防止策の検討と子どもへのケアを共有しています。
- ・玄関はオートロックで、インターホンとモニターで園長・主任が来園者の顔を確認してから解錠しています。
- ・不審者侵入対策に、合言葉を決めて子どもを安全に避難させる訓練を実施しています。
- ・中区からの不審者情報をFAXとメールで受信できる体制があり、マンションの防災センターとも連携しています。

評価分類

評価の理由（コメント）

II-3 人権の尊重



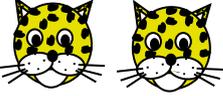
- ・子どもへの言葉かけや子どもの泣き声など、日常の保育で気になったことは園長が注意し、子どもの人格を認め、感情的な対応をしてはいけないことを、職員会議で話し合っています。
 - ・マイペースな子どもへも、時間を意識できるような働きかけをしつともせかすことはせず、個人差を受け止めて対応しています。
 - ・子どもに落ち着いて対応できる場所として、事務所や廊下、避難ブースがありますが、子どもが一人で他の視線を意識せず過ごせる場所はありません。
 - ・職員は全員入社時、守秘義務について研修を受け、ボランティアや実習生にも守秘義務があることを伝えていきます。また、個人情報管理規定があり、園で管理する個人情報帳票の保存方法・期間を定め、事務所の書庫に施錠保管しています。
 - ・遊びや行事の役割、順番、グループ分け、整列は、性差に関係なく子どもの意思を尊重して決めています。持ち物や服装、色なども性差を意識していません。
 - ・保育中に「男の子なんだから、女の子なんだから」という言葉かけをしないように、職員間で注意しあっています。
- <コメント・提言>
- ・子どもを受容し、笑顔を引き出すような温かい対応が求められます。
 - ・職員の目が届きながら、子どもが他者の視線を気にせず過ごせるような空間の確保が望まれます。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- ・4月の運営委員会で、入園のしおりをもとに、保護者に理念や基本方針を説明し、園目標は、毎月園だよりに掲載しています。
 - ・行事後や、年度末に1年間を振り返ったアンケートを実施して、園の方針が保護者に理解されているか把握しています。
 - ・0～2歳児全員と、3歳児以上の希望者は個別に連絡帳を持ち、保護者と連携を密にしています。3、4、5歳児のクラスノートには写真つきで保育の様子を毎日丁寧に記載して、園の保育方針が伝わるように努めています。
 - ・早番担当が登園時保護者から得た情報は、検温表に記録して担任に伝え、降園時は延長保育日誌に担任が書いたことを、保護者に伝える仕組みになっています。できるだけ保護者に声をかけるよう職員会議で話し合っています。
 - ・年に2回個別面談を行い、担任が保護者の意向を確認して、面談シートに記録しています。
 - ・4月と3月の運営委員会でクラス懇談会を行い、4月は子どもの成長の見通しとクラス運営について、3月は1年間の子どもの変化と進級や就学に向けての話をしています。
 - ・保護者からの相談は記録に残し、継続して対応できるようにしています。
 - ・保育参観は1週間程度設定し、窓越しに普段の保育の様子を見てもらえるようにしています。保育参観・保育参加の様子は、クラスノートや園だよりにのせて報告しています。
 - ・保護者の自主的な活動はありません。
- <工夫している事項>
- ・保護者に、子どものお誕生月に招待状を出して1日保育に参加してもらい、子どもと遊び、給食もとるなどして特別な日となっており、ほとんどの保護者が参加しています。
- <コメント・提言>
- ・保護者の自主的な活動への支援を通して園運営に理解を得て、園と保護者が協力して子どもを育てる意識を育むことが期待されます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・中区の子育て支援事業の「グランマ保育園事業」に参画し、絵本の貸し出しを行っています。また、中区民まつり「ハローよこはま」で実行委員を務めており、地域住民と交流しています。なお、定期的な育児相談は行っていませんが、園見学や絵本を借りに来た方を通じて、地域のニーズを把握しています。 ・園長が中区の園長会議で得た情報を、職員会議やリーダー会議で伝え、自園で出来る地域支援を検討して行っています。8月に絵本の読み聞かせの会を企画し、「お話し会のお知らせ」を設置法人のホームページにを載せて広報しましたが、未就園児の方の参加はありませんでした。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の広報媒体の利用など、一般の方への広報のしかたを工夫して、園の子育て支援が周知されることが期待されます。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への情報提供や育児相談は実施していませんが、入園希望者の保護者の方や「グランマ保育園事業」で絵本を借りに来る子どもの保護者の方の育児相談に対応しています。 ・自治会とは卒園式に椅子をお借りするなど、関係を築いていますが、地域に向けて園からの情報提供はしていません。 ・最寄りの医療機関や消防署、中央児童相談所、中区子ども家庭支援課、中部療育センター、系列保育園の連絡先を整理したファイルを事務所に保管し、職員は誰でも閲覧できるようにしています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた保育園であるためにも情報発信ならびに定期的な相談事業を実施することを期待します。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・中区の幼保小連携会議に園長と5歳児担当職員が参加し、情報交換するとともに交流を図っています。また、5歳児が就学に向けて近隣の小学校を訪問し小学生との交流を図っています。 ・ハロウィンではホテル・美容院などの近隣施設に協力してもらい仮装して訪れる子供たちにお菓子の配布をお願いしており、後日5歳児がお世話になったところに感謝状を制作し届けるなど交流を深めています。 ・近隣施設のパンフレットを預かって園内に置き、保護者への紹介に努めています。 ・横浜観光の中心地に位置している保育園の利点を生かし、散歩で山下公園・港の見える丘公園・赤レンガ倉庫などに行ったり、NHK横浜放送局・人形の家・神奈川芸術劇場などの地域の文化・公共施設を訪問しています。 ・また、近隣保育園児とは散歩で出会うこともあり、中区の保育園の5歳児が参加する駅伝競走大会に毎年参加しています。

<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット「アスク山下町 入園のご案内」は中区役所に置いてあり、誰でも持ち帰りが可能です。また、設置法人のホームページには定期的に園の活動内容を写真付きで掲載しています。 ・利用希望者には電話予約の上で見学できることを伝えており、保育に支障がない限り、利用希望者の都合に合わせています。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと実習生の受け入れと育成の責任者は園長で、受け入れにあたっては、マニュアルに従って説明を行い、プライバシー保護、守秘義務について理解・了解を得た上で誓約書の提出を求めています。 ・昨年度は高校生ボランティア2名を受け入れましたが、振り返りが出来ませんでした。 ・実習生の受け入れにあたっては、学年・実習経験・年齢・実習目的などを確認し学校側とも相談しながらプログラムの工夫をしています。 ・毎日反省会を設けて、各クラス担当職員が日誌の添削を行うなど丁寧な指導を行っています。また、実習最終日には全体での反省会を開き、園長・主任も出席して、反省・振り返り・意見交換を行っており、実習生の意見や感想を園の保育の参考にしています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はボランティアの感想・意見を聞き取ることが出来ませんでした。今後は後日の郵送などにより感想・意見などを出していただき園運営に反映する事が望まれます。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の採用は設置法人が行い、園長は必要な人材や配置状況をチェックして、必要があれば設置法人に要請しています。 ・設置法人は運営理念・基本方針の実践のため、「保育士人材育成ビジョン」を作成し、これをもとに研修計画を立てて計画的に人材育成を図っています。 ・職員は、上期・下期にわかれて個人別年間研修計画を立て、半期に1度園長と面談をしてその評価・反省をしています。また、「保育士に求められる役割・能力」に照らし合わせて査定が行われ、各自目標とするところが明確になっています。 ・職員は中区主催の「障害の理解」研修など、外部の研修にも参加しています。研修結果の伝達は、レポートを閲覧するか、クラスリーダーや主任がフォローしています。 ・設置法人が、研修内容について職員アンケートをとり成果の検証をして、翌年の研修計画に反映させています。 ・マニュアルは配布されてはいませんが、事務所に備え、いつでも見ることができます。 ・職員と非常勤職員の組み合わせを配慮して、主任がシフトを作成しています。 ・非常勤職員の指導はクラスリーダーが行い、園長・主任も適宜指導してフォローしています。非常勤職員は研修や職員会議の出席が難しい状況ですが、記録を閲覧して情報を共有しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、年2回人事考課につながる自己査定を行い、また前期・後期で自身の研修計画の評価も行っています。園としては、毎年受審する第三者評価の自己評価を利用して振り返り、年度末の会議で総括する仕組みがあります。 ・年間・月間指導計画、週案、保育日誌の書式は、目標や評価を記入して連続性の持てるものに統一しています。自己評価が計画の目標に照らしたものになるよう、研修で書き方を学んでいます。 ・園長は、職員の自己評価は、できた、できない、や出来栄えでなく、子どもの育ちや意欲をとらえて、翌期の保育につながるものとなるように指導しています。 ・第三者評価の自己評価に一人一人取り組んで3回にわたり職員会議で話し合い、園長・主任がまとめています。その中で園としての課題を抽出して改善に努めています。 ・昨年度末には「締めくくりとスタートのための会議」を行い、「他のクラスとの関わりをもっとやってもよかったですのでは？」という反省がありました。このことを、研修計画の反省や、保育課程の見直しにつなげています。 ・保育所としての自己評価の公表はしていません。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の話し合いから浮かびあがった、園の評価・反省と次年度に向けての課題を、保護者に何等かの形で表明されることが園としての自己評価の公表になりますので、実行が期待されます。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育士に求められる役割・能力」があり、職制や経験に応じた期待水準が明文化されています。 ・保育の現場では判断や対応は各職員に任されていますが、報告をするよう求め、責任者は園長であることを表明しています。 ・職員にも行事後にアンケートを募り、改善策や意見を聞いています。また、延長保育の割増料金の徴収について、職員の意見を参考に設置法人と図りました。 ・園長やマネージャーが年2回個別に面談し、職員の意向や要望を聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織および職員が守るべき法・規範・倫理などは「保育園業務マニュアル」「就業規則」に明文化されており、職員には入社時研修で周知しています。 ・設置法人にコンプライアンス委員会があり不正などを直接通報できる仕組みがあり、連絡先を職員のロッカー室に掲示しています。また、設置法人での園長会議で報告された他園の事例などは、リーダー会議や職員会議などで話し合い職員のモラルアップを図っています。 ・設置法人作成の節電啓発ポスターを事務所に掲示するとともに、リサイクルも兼ねてごみの分別回収を行っています。また、園で行う夏祭りなどの際は、保護者に箸やコップの持参を呼び掛けています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は職員が理念や基本方針・園目標を理解しているかどうかを年2回の個人面談で確認するとともに、日常保育の中でそのことが行われているかどうか確認しています。 ・園が重要な意思決定をする場合、その目的・決定理由・経過などを職員会議で説明しています。また保護者には運営委員会や懇談会などで説明し理解を求めています。 ・主任は個々の職員の能力に合わせた助言を行い、各クラスが円滑に運営できるような的確な指導を行っています。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響する外部環境などの変化については設置法人が情報の収集・分析を行っています。なお、設置法人全体で取り組む事故やケガの発生を防ぐ重点取組課題は、園長が職員会議で職員に周知し、園全体で取り組みを進めています。 ・平成25年6月に5年長期計画目標として「子供が自ら育つ力を引き出す」「子育てを支える温もりのある地域との連携」「親や職員が自らも育っていくことを支援」を定め、長期計画・中期計画を設定しています。 ・設置法人が「日本育成協議会」に加入しており、外部の機関や大学教授などの意見などを積極的に取り入れています。必要なことは設置法人での園長会を通じて各園長に周知されています。

利用者家族アンケート

事業所名:アスク山下町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数 60名、全保護者54家族を対象とし、回答は35家族からあり、回収率は65%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は97%(満足57%、どちらかといえば満足40%)と高い評価を得ており、否定的な回答は3%(どちらかといえば不満0%、不満3%)でした。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) お子さんの様子や成育歴などを聞く対応(入園時の面接)(97%)
- 2) 保育園での1日の過ごし方(入園時の説明)(97%)
- 3) クラスの活動や遊びについてお子さんが満足しているか(97%)
- 4) 園のおもちゃや教材についてお子さんが自由に使えるか、年齢にふさわしいか(97%)
- 5) 給食の献立内容(97%)
- 6) お子さんが給食を楽しんでいるか(97%)
- 7) 園だよりや掲示などによる園の様子や行事に関する情報提供(97%)
- 8) お子さんが保育園生活を楽しんでいるか(97%)

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか(79%)
- 2) 開所時間内であれば柔軟に対応してくれるか、残業で迎えが遅くなる時の対応(79%)
- 3) 感染症の発生状況や注意事項などの情報提供(82%)
- 4) 話しやすい雰囲気、態度(職員の対応)(82%)
- 5) 自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動(85%)
- 6) 遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているか(85%)
- 7) 園の行事や開催日への配慮(85%)
- 8) 送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換(85%)

調査結果

平成27年10月28日

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	9%	65%	12%	14%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	70%	30%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	65%	23%	3%	0%	9%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57%	37%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	46%	45%	3%	0%	6%	0%
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	74%	23%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	60%	37%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	62%	20%	9%	6%	3%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	60%	31%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	46%	33%	12%	3%	6%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	51%	46%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	60%	31%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	51%	46%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	46%	39%	15%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	51%	34%	15%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	49%	45%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	80%	17%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	60%	37%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	57%	34%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	63%	31%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	51%	37%	0%	0%	12%	
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	63%	28%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	63%	25%	9%	0%	3%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	28%	60%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	40%	51%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	54%	37%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	49%	33%	18%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	46%	45%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	57%	40%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	54%	31%	6%	3%	6%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	37%	48%	15%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	46%	48%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	46%	45%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66%	13%	9%	6%	6%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	63%	31%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	66%	31%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	51%	23%	6%	0%	20%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	60%	22%	12%	3%	3%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	40%	48%	12%	0%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	57%	40%	0%	3%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 27 年 11 月 11 日

事業所：アスク山下町保育園

【0歳児】

<散歩>

6人の子は月齢に幅があり、全員でバギーに乗って山下公園に行きます。歩けない子は芝生の上にシートを敷いて、ピクニックのように座ります。子どもが手元の枯葉を手にとって、じっと見つめているのを「葉っぱね、茶色いね」と言って、職員は口に運んでしまわないように見守っています。職員に見守られながら、足もとの感覚を確かめるようにゆっくりゆっくり歩いている子もいます。他のクラスの子たちも公園に到着し寄って来て、ハイハイを促したり、ペットボトルで作ったガラガラを振って笑いあっていました。

<排泄>

散歩から帰り、靴下を脱ぎます。職員は、つま先部分をちよつとつまんで脱ぎやすく援助し、子どもは引っ張って脱ぎ、自分でできると得意そうにしています。職員はおむつをチェックし、濡れている子はシートの上であやさながら手早く替えています。立ってられる子は、職員と向き合って立ったまま替えています。そして、一人一人抱きかかえられて手を洗ってもらいます。拭いた紙タオルを捨てようと、ごみ箱を指さして職員に訴える子がいて、「そうね、〇〇ちゃん、ありがとう」と、職員が笑顔で応えていました。

<食事>

アレルギー食の子、離乳食と完了食に分かれて座ります。職員が配膳の準備をする間手遊びをして、職員が『スプーンちゃん』の絵本を読むのを皆じっと見入っています。受けのついたスタイが配られると、自分で着けようとする子がいます。最初はスプーンを持つ手と反対の手で、手掴みで食べています。職員が「もぐもぐね」「おいしいね」と声をかけ、一人一人のペースに合わせてスプーンを口に運んでいます。

<午睡>

布団の上に、自分で横になる子もいれば、横になるのを嫌がり抱っこされている子がいます。職員は、まだまだ遊びたい様子の子をラックに座らせ、手を

伸ばして遊べるようにおもちゃを置きます。膝の上に抱かれて、ミルクを飲む子もいます。職員は一人一人の要求に応えるために、応援の職員の手も借りてゆったりとした雰囲気づくりに注力し、カーテンを引くと、一人、また一人と眠りに落ちて行きました。

【1 歳児】

<自由遊び>

線路の書いてあるマットの上で、子どもたちが電車のおもちゃを走らせて遊んでいます。また床の上では、ブロック遊びや、職員の膝の上で絵本を広げて見ている子もいます。職員は、子どもたちがブロックに足をとられて滑らないように見守っています。

【2 歳児】

<朝の遊び>

カプラで線路を作り、長くつなげてブロックでつくった電車を走らせている子たちや、タワーのように積み上げている子たちもいます。職員が、散歩に出かけるのでトイレに行くように伝えると、子どもたちは高く積み上げたタワーを思い切り崩して爽快だったのか、ゲラゲラ笑い合っていました。

<歯磨き・排泄・着替え>

食事の前、トイレに一人の子がパンツを持って来ました。「〇〇ちゃん、食事中にトイレに来なくなっちゃうと困るから、今はオムツにしよう」と職員に促されましたが、なかなか納得せず、「それならオムツをはいて、その上にパンツをはこう」となだめられ、自分でオムツを取りに行きました。

給食後、子どもたちは一人一人皿やコップを自分で下げて、歯ブラシをとりに行きます。椅子に座って歯を磨き、職員が一人一人仕上げ磨きをしています。自分でロッカーにパジャマを取りに行行って着替え、脱いだものを自分でたたんでしまっています。

【3 歳児】

<歯磨き>

4、5人が椅子に座って歯磨きをしていましたが、一人がいきなり泣き出し、暴れています。職員が来て、その子に「どうしたの?」と尋ねると、そばで見っていた別の職員が、「歩きまわっているうちに、自分が居た歯磨きの椅子に他の子が座ってしまったので、怒っているんです」と説明すると、「〇〇ちゃんも、歯磨きしたいから、すわったんだよ。もう少しで空くから、待つてようね」と

なだめ、空いた椅子にすわって仕上げ磨きをしてもらっていました。

<トイレ>

散歩から帰るとめいめいトイレに向かいます。トイレの中で職員の一人が、ズボンの脱ぎ着やお尻を拭くなど、子どものできないことを援助しています。給食準備中に黙ってトイレに行った子に、職員が「〇〇ちゃん、先生に行ってきますって言ってから行こうね。一人だけ行方不明になっちゃうよ」と言っていました。

【3歳児・4歳児】

<朝の時間>

区の駅伝大会に出席するため、今日は5歳児がいません。5歳児の部屋で、3歳児と4歳児と一緒に好きな事をして遊んでいます。ボールペンで描かれたキャラクターの絵を塗り絵にしている子が、「これ、先生が書いてくれたの」と教えてくれます。部屋の中央には、机の上で小さなパーツを組み合わせて遊ぶ子たちや、トランプのスピードをしている子たち、奥の方では、井桁型のブロックを組み合わせて好きなものを作っている子たちがいます。自信作のできた子が、「これ見て」と、持って来て、使い方を教えてくれました。

遅れて登園してきた子がなかなか保護者から離れられず、職員がしばらく抱っこをして落ち着かせると、塗り絵をしている子たちの中に加わって遊び始めました。

その後、職員の「お外に行きましょう！お片付けできるかな！」の掛け声で、子どもたちはおもちゃを片付け・組み立てたブロックを外して箱に入れ片付けていました。職員はその様子を見て「すごい上手」と声をかけ、マットは職員が片付けていました。

<散歩>

職員の「おトイレ大丈夫かな～」のかけ声に対し、「たいじょうぶ！」と言う子どもとトイレに行く子どもがいました。「〇〇さん」「●〇さん」と、玄関で点呼をした後、職員が「これから、さくら組とひまわり組で山下公園に行きます！」と説明しました。

20人の子どもたちを2人ずつ手を繋がせ縦列状態で2人の職員で引率して出発します。途中横断歩道があると、職員が「ハイ！渡ります！」と声をかけ、青信号になると、子どもたちは手を挙げて渡っていました。

公園に到着し道端の石に座り点呼後、職員が持ってきた道具などで自由に遊ぶことになりました。

最初は、木登り、駆けっこ、縄跳び・バットとボールで遊ぶ子、虫取り、シヤボン玉遊びをする子など、全員が自由に遊びを選んで遊んでいました。中には虫メガネを持って虫を探している子どももいました。

しばらくして職員が入り、多人数での大縄跳び、多人数での徒競走、野球などを教えながら子どもたちと遊んでいました。

約1時間後、職員の笛の合図と「帰りましょうか！」のかけ声で子どもたちは全員集合し、上着を着て、点呼後保育園に向けて出発しました。

保育園に到着して点呼後部屋に入り、職員の「部屋に入ったら上着を脱いでね〜」「手を洗ってね〜」の声に合わせて、子どもたちは動いていました。

<食事>

給食の歌を歌い「召し上がれ」「頂きま〜す」で全員食べ始めました。

完食の喜びを味わわせてあげるため、職員が「量を減らしてほしい人〜」と声かけを行い、事前に量を調整し、全員で食事を開始しました。

食事中はおしゃべりもあり賑やかでした。職員の「長い針が赤いところに来るまでに食べようね〜」の声がかかりましたが、子どもたちのお喋りは止まらず賑やかでした。それでもお替りをする子どももいましたが、職員は様子を見ながら食べるのが遅い子どもには、スプーンを渡していました。お替り自由なので、数人がお替りをしていました。

予定時間を10分超過した時点で全員で「ご馳走様でした」と言って、順次歯磨きに移っていきました。ほとんどの子が自分でみがいていましたが、上手く磨けない子は職員が手伝っていました。なお、その後10分後の時点では2人、20分後の時点では1人の食事が未了でしたが、テーブルを移して食事を続け、職員はそのまま見守っていました。

<排泄>

職員にトイレに行きたいと了解を取って、一人でトイレに行っていました。

<午睡>

食事後の歯磨き修了後、自分でパジャマに着替え、トイレに行く子は行って布団の上に横になると、順次午睡に入っていました。

【5歳児】

<製作>

受験のため欠席者が多く、6人の子と職員で、先日行ったハロウィンで訪問した方への感謝状を仕上げています。1枚1枚、子どもたちが書いたものに額縁の

ような装丁をしています。ずれないように協力して抑えながら、テープで止めています。「上手にかけているね。いつ渡すの？」と聞いてみると、「勤労感謝のお手紙なの」と教えてくれました。

<食事>

駅伝大会から帰っていつもより時間が遅かったので、全員自分の食事は自分で運んでいました。職員の献立の説明後、全員で「いただきます」の声で食事に入りました。

最初は食べるのに集中していましたが、だんだんおしゃべりに花が咲き、にぎやかになっていきました。お腹がすいていたこともあり、盛んにお替りをしていました。

H27年度第三者評価事業者コメント(アスク山下町保育園)

【受審の動機】

運営主体の理念である「利用者のニーズに合った保育サービスを提供すること」が確実に園の運営に反映できているのかを考える機会と捉え受審いたしました。

評価機関の選定につきましては、毎年同じ評価機関に依頼することで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけたと考えております。

職員一人一人が自身の保育を振り返り、今後の園の目指すべき方向性を確認することで、さらに利用者のニーズに合った良い園を目指して参りたいと思います。

【受審した結果】

今年度も引き続き第三者評価を受審したことで、当園で優れていることや、今後改善が必要なことについて確認することができました。

優れていると評価していただいたことは2点ありました。1点目は、戸外活動についてです。当園はビルの中の園なので、天気の良い日はほぼ毎日園の近くの公園に行き自然と触れ合っています。今後も自然にあふれた環境の中で心豊かな遊びを子どもたちに伝えていきます。2点目は、保護者へ日々の園の取り組みを伝える工夫についてです。今後ともクラスだよりやクラスノートを工夫して作成し、誕生月に保護者に参加していただく保育参加も継続することで、園の日常の様子を保護者に感じてもらえるよう努力して参ります。

利用者家族アンケートで肯定的な回答が97%と高い評価をいただき、大変ありがたく思います。この評価を裏切らぬよう、今後も運営方針である「利用者が本当に求めるサービス」をさらに追及し提供していきます。

また、改善をしていくべきことは3点ありました。1点目は計画の継続努力についてです。中長期計画に挙げていることで、今年職員配置などでやむを得ず実施できなかったことを来年以降は実行できるか検討して参ります。2点目は職員の資質向上への取り組みについてです。職員の異動が続いた時期があり、保育の資質に差がある傾向がありました。今後は会議や研修を通して職員間で保育観の共有、確認をして参ります。3点目は不審者と津波への備えについてです。毎日園の近くの公園に行っていますが、園外活動中の不審者対策を再度確認し、より安全に配慮しながら子どもたちが思い切り遊べる環境を作ります。安心・安全を第一に大地震時の津波対策の訓練も計画を立てて実行して参ります。

最後に今回の受審にあたって、ご多忙にも関わらずご利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様、ご尽力いただいた評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。_